

テーマ

平和をつなぐバトン

I このテーマの記事を選んだ理由を書いてください。

社会の授業で日本国憲法について学んだ。日本国憲法の三つの原則のうちの一つである平和主義では過去の戦争の反省をもとに、悲惨な戦争を二度とくり返さないこと、そのために戦力はもたないことを定めている。戦後70年の今、この平和への願いは戦争体験者によってどのように語り継がれているのか知りたいと思ったのでこの記事を選んだ。

II 比べる記事のそれぞれの内容について分かったことを書いてください。

①について空母「瑞鶴」の元乗組員だった方が、レイテ沖海戦での記憶を語っている。瑞鶴には敵の航空艦隊をおひき寄せせるおとりの役割があったこと、魚雷と機銃掃射におそわれ、乗員の8人が亡くなったこと、自身は命からがら逃げたことが記事になっている。

②について戦争体験を伝えていく語り部の活動が難しくなっている。戦前生まれの人口が減少し、高齢化が進んでいるためだ。そこで広島県三次市のあるNPO法人では、平和活動を行う若者たちに報酬を支払う制度を始めた。また、鹿児島県鹿屋市では、VMA動画を公開し、当時のリアルな映像を現地で体験できるようにした。

①と②を比べて分かったこと、自分で調べてみたいこと。

①では、実際に戦地で戦った元兵士が、②では平和活動に興味がある戦後生まれの若者たちが戦争を語り、平和の尊さを次世代に伝えようとしている。平和を願う気持ちも同じだ。小学6年生の今の私にできる平和活動とは何かを考えてみた。

III テーマについて、自分の考えや他の人と交流して気付いたこと、調べたこと、提案などを書いてください。

その答えを見つげるため、私は昭和館を見学した。昭和館では、戦中戦後の人々のくらしを知ることができた。出征した兵士が家族に宛てた一部黒塗りされた手紙。なぎなた訓練をしている女の子たちや防空服装で授業を受けている生徒たちの写真。タバコを吸う戦災孤児の写真。私は、それらを見て、戦争をすることは国が勝手に決めたことなのに、それによって苦勞を強いられたのは国民だったのだと改めて思った。そして、事実を知ること、知ることによって平和の大切さを何度も何度も認識すること、これが今の私にできる平和活動だと思った。

その先の選挙権を持つ18歳になったときには、二度と戦争を繰り返さない、「この思いを実現してくれる候補者を自分で選び、投票できるだけの知識を得ていたい」と思った。

発行日

8月15日

発行者(氏名)

田端
小学校
第6学年
児童